

令和 6 年

伊豆市市政 20 周年記念事業

中学生議会会議録

8 月 21 日開会・閉会

伊 豆 市 議 会

令和6年中学生議会会議録目次

第 1 号 （8月21日）

○議事日程	1
○本日の会議に付した事件	1
○出席議員	1
○欠席議員	1
○説明のため出席した者の職氏名	1
○職務のため出席した者の職氏名	1
○開会宣告	2
○開議宣告	2
○議事日程説明	2
○会議録署名議員の指名	2
○会期の決定	2
○一般質問	2
小藤田 爽 真 君	3
下 山 咲 耶 君	5
大 川 華 穂 君	7
藁 科 善 君	8
山 崎 結 夏 君	10
鈴 木 花 奈 君	13
佐 野 安華里 君	15
鈴 木 瑛 太 君	17
鈴 木 悠 唯 君	18
佐 藤 優 志 君	20
大 川 竣 矢 君	21
○閉会宣告	23
○署名議員	25

伊豆市市政20周年記念事業 中学生議会

議 事 日 程（第1号）

令和6年8月21日（水曜日）午前9時30分開会

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 会期の決定

日程第 3 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（11名）

2番	小藤田 爽 真 君	3番	藁 科 善 君
4番	佐 野 安華里 君	5番	鈴 木 悠 唯 君
6番	鈴 木 瑛 太 君	7番	佐 藤 優 志 君
10番	下 山 咲 耶 君	11番	山 崎 結 夏 君
12番	大 川 竣 矢 君	13番	大 川 華 穂 君
14番	鈴 木 花 奈 君		

欠席議員（なし）

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

市	長	菊 地 豊 君	教 育	長	鈴 木 洋 一 君
---	---	---------	-----	---	-----------

職務のため出席した者の職氏名

事 務 局 長	稲 村 栄 一	次	長	土 屋 洋 美
主 任	原 亜里沙			

開会 午前 9時30分

◎開会宣告

○議長（青木 靖君） 皆さん、おはようございます。

ただいまから、伊豆市政20周年記念事業中学生議会を開会いたします。

本日の出席議員は11名です。定足数に達していますので、会議は成立しました。

◎開議宣告

○議長（青木 靖君） 直ちに本日の会議を開きます。

◎議事日程説明

○議長（青木 靖君） 本日は、一般質問の答弁のため、菊地市長、鈴木教育長に出席を求めておりますので、ご報告いたします。

本日の議事日程はお手元に配布の通りです。

普段、伊豆市議会で行っているのと同じ形式で、中学生議会の一般質問を行いますので、よろしくお願いします。

◎会議録署名議員の指名

○議長（青木 靖君） それでは、日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

会議規則第88条の規定により、議長において指名します。議席番号2番、小藤田爽真議員。議席番号14番、鈴木花奈議員を指名します。

◎会期の決定

○議長（青木 靖君） 日程第2 会期の決定を議題とします。

お諮りします。

今定例会の会期は本日1日限りとしたいと思います。

これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（青木 靖君） 御異議なしと認めます。

よって、会期は本日1日限りと決定いたしました。

◎一般質問

○議長（青木 靖君） 日程第3 一般質問を行います。

本日の一般質問は、伊豆市の将来に向けてをテーマに、11名の議員より通告がなされております。

質問の順序は、配付してあります、一覧表の通りです。

発言順序 1 番の小藤田爽真議員から発言順序11番の大川竣矢議員まで11名の一般質問を行います。

それではこれより順次質問を許します。

◇ 小藤田 爽 真 君

○議長（青木 靖君） 最初に、議席番号 2 番、小藤田爽真議員。

〔2 番 小藤田爽真君登壇〕

○2 番（小藤田爽真君） 議席番号 2 番、伊豆市立修善寺中学校 3 年 1 組小藤田爽真。

より美しい伊豆市のために。

僕は、伊豆市の公園や堤防などにごみ回収用の箱を設置し、ごみゼロの美しい伊豆市をつくっていったらどうかと考えました。

僕は普段、家から学校まで徒歩で登校しています。元気よく挨拶を交わしてくれる地域の方のおかげで、毎朝良いスタートを切っていますが、どうしてもお菓子のゴミやビニール袋が捨てられているのを見ると、悲しい気持ちになってしまいます。

以前とある SNS で、ユーザーになぜポイ捨てをするのかというアンケートを取ったものを見ました。何と85%の人が、ごみ箱がないからポイ捨てをすると答えていました。

また、僕は道端に落ちているごみを片付けようとしたときに、近くにごみ箱がなく、困ったことがあります。

このことから、公共施設や桜が綺麗に見える堤防など、人が多く集まるところにごみ箱を設置することは、ポイ捨てをする人が減るのではないかと思います。

僕は提案するだけでなく、中学生として、伊豆市の中学校同士で伊豆市をより美しくしたいという思いを共有し、広めていきたいと思います。

ごみ箱の設置について、市長はどのようにお考えですか。

また、僕の思いを広めるために、学校同士で共有できる方法を、教育長、検討していただけないでしょうか。

○議長（青木 靖君） ただいまの小藤田爽真議員の質問に対し、答弁を求めます。

菊地豊市長。

〔市長 菊地 豊君登壇〕

○市長（菊地 豊君） 皆さん、おはようございます。

小藤田議員のご質問にお答えします。市内にごみ箱を設置してまちを綺麗にするという発想はとても素晴らしいと思います。

集落ごとにごみステーションを置いて、決められた日の朝にごみを出すという伊豆市の制度が、全国で、或いは世界中で同じというわけではありません。

私がかつて勤務したドイツでは、道路沿いに大きなごみ箱、こんな大きなものですね、3つぐらい置いて、これは瓶、これは燃えるゴミ、何曜日の何時でも出せるということがありました。

また、ジオパークの会議で参加したイタリアでも同じように、地域の中心部に大きなごみ箱が設置してあって、自分の都合がいい時間体に捨てられる、そんな国もあります。

日本でも、以前はコンビニやドライブインなどで、店の外にごみ箱が置かれているのが普通でした。

今ではほとんどお店の中に置かれているか、或いはごみはお持ち帰りくださいと表示されていたりします。どうしてでしょうか。それは多くの人が家のゴミを持ち込んだり、大量のゴミを捨てたりして、お店では処理しきれなくなったからです。

つまり、人の身勝手な行動で逆に私たちが不便になってしまっています。

市内を見ると、集落と集落の間や峠、例えば戸田峠、船原峠などの道路沿いに多くのゴミが捨てられています。

私は市長として、むしろそのようなところにごみ箱を置いて捨ててもらったら、道路沿いをずっと掃除するよりも楽ではないかと、市役所で提案したことがありましたが、結局うまくいかないのではないかと結論になってしまいます。

1人でも多くの市民が自覚を持って、自分ごととして清潔なまちづくりに取り組んでもらえるようになったら、小藤田議員の提案は実現できると考えています。

○議長（青木 靖君） 続いて鈴木教育長。

〔教育長 鈴木洋一君登壇〕

○教育長（鈴木洋一君） 改めまして、おはようございます。

小藤田議員の学校同士で共有できる方法についてお答えをいたします。

初めに、小藤田議員のごみゼロの美しい伊豆市のために、ごみ箱の設置を提案していただき、ありがとうございます。

また、アンケート結果や実体験を通じて、ポイ捨てをなくすための工夫として、ごみ箱設置を提案し、伊豆市を美しいまちにして、より良くしていこうという思いに感謝いたします。

こうした思いを学校同士で共有するには、生徒の自治的な活動である生徒会活動を通じて、学校間で共有するのが一般的であるかと思います。

小藤田議員の提案を、まずは自校の生徒会担当の先生に相談をして、生徒会執行部で検討してもらってはいかがでしょうか。

また、執行部で他校との連携を進めることを検討し、連携を進めることが決定しましたら、他校の生徒会に呼びかけていく方法が考えられるかと思います。

今では、オンラインでの会議もできますので、小藤田議員の思いを他校の生徒に直接伝え、ごみゼロの美しい伊豆市をつくるためにという提案を共有することも可能であるかと思

います。

市内の美化活動としては、伊豆総合高校で毎月、修善寺駅周辺の清掃を行います「修善寺大掃除」という取り組みがあります。私も1度生徒と一緒に参加をさせていただいたことがあります。生徒だけでなく、卒業生や地域の方なども参加していました。

以前から参加していた方に話を聞きましたが、当初はごみの量も多くて、処理するのに大変苦労した、とのことでしたが、今では、駅周辺のごみが少なくなって綺麗になってきたそうです。

この活動は10年以上も続くもので、ごみ拾いの場が自校の生徒だけでなく、地域や他校へと広がっている活動で、皆さんの先輩や地域の方々が取り組んでいるものであり、参考になる事例であるかというふうに思います。

伊豆市の自然や環境を守りたいという思いは、多くの人にあると思いますので、小藤田議員の思いが、より多くの方に広まることが、美しいまちづくりに繋がっていくものと思います。

以上です。

○議長（青木 靖君） これで、小藤田爽真議員の質問を終了します。

◇ 下 山 咲 耶 君

○議長（青木 靖君） 次に議席番号10番、下山咲耶議員。

〔10番 下山咲耶君登壇〕

○10番（下山咲耶君） 議席番号10番、下山咲耶です。

伊豆市を自転車の聖地に。

私は、伊豆市内を走るカッコいいロードバイクをよく見かけます。天城学習では、伊豆市が伊豆市自転車まちづくり基本計画という、自転車文化を根づかせることを目的として、多くの施策を進めていることを学びました。

ロードバイクなどの自転車ブームはコロナ禍の終息とともに去ったと言われていますが、市内ではまだ多くの車両を見かけます。

オリンピック自転車競技の会場にもなった影響か外国の方も見かけますし、観光資源も豊かな伊豆市の持つ、ロードバイクなどの自転車に関する魅力、ポテンシャルはとても高いと感じます。

ランニングより膝に負担がなく、効率よくカロリーを消費できる自転車は、健康増進にも有効だと思います。

また、SDGsにある健康やエネルギーなどの課題にも有効なことだと思います。山がちな地形ですが、市民にも自転車利用が根づき、未来は伊豆市が自転車の聖地として国内外で認知されるようになればいいなと考えます。

そのために、初心者でも参加しやすい敷居の低いサイクリングイベントを増やす。インタ

ーネット上だけではなく、市民の誰にでも届く事前広報の強化と、参加ポイントによるいづっち券の配布などのサービス設定。円安効果で増加中の外国人観光客をねらった海外へのアピール強化。市内に1件もないロードバイクなどのプロショップの誘致などができればよいのではないかと考えますが、市長はどうお考えですか。

○議長（青木 靖君） ただいまの下山咲耶議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

〔市長 菊地 豊君登壇〕

○市長（菊地 豊君） 下山議員のご質問にお答えします。

自転車はガソリンも使わず、排気ガスも出さないのので、地球環境にとって素晴らしい乗り物です。しかも、健康づくりの役にも立ちますから、これを利用しない手はありません。

いろいろなスポーツがある中で、足を膝の高さよりも上げて、360度まわし続けるスポーツというのは、自転車だけなんだそうです。

世界で最も自転車を利用する国民は、オランダ人だと言われていて、大体8キロぐらいまでは自転車を使うそうです。

天城中学校の下の方のバス停から、修善寺駅くらいの距離だと思います。

オランダは真っ平らな国ですから、坂が多くて道路が厳しい伊豆とは必ずしも合いませんけれども、伊豆市においてももう少し自転車が活用されてよいのではないかと考えています。

今、伊豆半島全体で自転車を活用したまちづくりを進めていますが、特に伊豆市は、東京2020大会、自転車競技が開催された場所ですから、いろいろなイベントをしやすい場所だと思います。

私が市長になった頃、西伊豆町の沢田公園という、堂ヶ島の隣の露天風呂がありまして、ご存じでしょうか。すごい崖の上に温泉があって、駿河湾を見渡せる素晴らしい景色の温泉なんです、そこに入っていたら白人の男性2人が入ってきました。

どこの国から来たのですかと聞いてみたら、何とイギリスの方で、三島駅でレンタサイクルを借りて、西伊豆町まで自転車で行ったそうです。しかもまだ日本に赴任してから7ヶ月目。これは日本国内の治安がよくて、外国の方でも安全であるということ。それから、伊豆の景色が美しく、自転車で走りたくなった、そういうことが理由だと思いました。

下山議員のご指摘のように、初心者から上級者まで幅広く参加できるイベントや地元のお土産などを用意して、誰もが楽しめるイベントをこれからもいろいろ考えていきたいと思っています。

ただ1つ難しいのがプロショップです。せっかくオリンピックの自転車競技が開催された伊豆市なのに、自転車の専門店がありません。大型の店舗を誘致することは、すぐにはできそうもありません。

そこで、今考えているのは、修善寺駅の近くに自転車ステーションがあるんですけど

も、例えばそこにカタログを置いて、注文して買うような仕組みができないか、或いはそこでせめて買った自転車の修理ぐらいはできないか。そんなことを考えています。

私も買った自転車を修理するのに、三島か沼津の自転車屋さんまで持っていかなくてはなくて、多少不便を感じています。

いずれは伊豆半島のあちらこちらに修理や休憩のできる自転車ステーションが広まっていけば良いなと考えています。

以上です。

○議長（青木 靖君） これで、下山咲耶議員の質問を終了します。

◇ 大 川 華 穂 君

○議長（青木 靖君） それでは次に、議席番号13番、大川華穂議員。

〔13番 大川華穂君登壇〕

○13番（大川華穂君） 議席番号13番、大川華穂です。

将来の伊豆市について。

私が思う伊豆市のもっとこうなって欲しいところは、若い人にも住んでもらうことです。

伊豆市では年々と過疎化が進んでいるので、地域を発展させていくためにもこれから若い人たちの力が必要になると思いました。

もっと伊豆市の魅力がたくさん人に伝われば、伊豆市を訪れてくれる人が増えるのではないかと思います。

そのためには、観光客に向けて修善寺温泉などのPRをしたり、伊豆市の飲食店などを紹介したりして、伊豆市に少しでも興味を持ってもらう機会があったら良いと思います。

私は10年後、伊豆市でたくさんの人と関わりながら過ごしたいです。伊豆市の人口を増やし、もっとたくさんの魅力を見つけるために、いろいろな人と関わって伊豆市を盛り上げていけたら良いと思います。

市長は、市を盛り上げて若い人達にも住んでもらい地域を発展させるために、観光PRなどをどのように進めますか。

○議長（青木 靖君） ただいまの大川華穂議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

〔市長 菊地 豊君登壇〕

○市長（菊地 豊君） 大川議員のご質問にお答えします。

伊豆は日本有数の観光地ですから、観光PRを移住促進につなげようというのはとても良い発想だと思います。

伊豆箱根鉄道は修善寺までしか来ていませんが、かつては鉄道の無い、中伊豆、湯ヶ島、土肥にも多くの方が住んでいました。

ワサビやシイタケ、炭焼きなど、森林が富を生み出し、土肥や持越では、たくさんの金を

採掘できたために、産業がにぎわっていたからです。

昔は田んぼで米を作るよりも、しいたけを作った方が何倍ものお金になる時代があり、また土肥は佐渡島に次ぐ、大きな金山でした。土肥の小学校には1000人以上の児童がいたそうです。

では、これから見通し得る将来、伊豆の基盤産業は何でしょうか。私はやはり観光だと思います。人口2万7,000人の伊豆市に宿泊客が約80万人。観光交流客は何と350万人も毎年訪れてくれています。これを産業として活用し、しっかり人生設計を組むことのできる、所得を得られるようにしていかなければなりません。

伊豆市は人口が減っていますが、伊豆市に移り住んできた人もたくさんいます。

その方々が時々ランチを食べながら情報交換しているんですが、私も参加しています。私自身も30年間、伊豆市にいなかったのも、移住組だと理屈をこねて参加してはいるんですが。ある時、私が伊豆はこんなにいいところなのに、地元の人たちは、こんなところは駄目だっていうんですよねと言ったら、帰り際に1人の女性が私のところに来てくれました。

私は定住先を探しているときに、主人と一緒に全国を見て回りました。そして、その中で伊豆市が一番いいと、ここを選んで決めました。今、中伊豆に住んでいるそうです。新しい中伊豆温泉病院もでき、豊かな自然と安全な生活がベストミックスになっていると思います。

私事ですが、私は、北緯63度のアイスランドという国、皆さん北海道知っていますよね。寒いんですよね。北海道から日本列島をもう1個分ぐらい北にある国です。北緯63度。

あるいは、南アフリカのケープタウンというところも行ったことがあります。

私が1年間住んだ北ドイツのハンブルクという町はドイツで最も経済力が強いところですが、冬はマイナス20度になります。

日本の東海地・伊豆半島、そして伊豆市は間違いなく世界で最も住みやすい場所の1つです。私たちは誇りと自信を持って、伊豆は本当にすばらしい、住みやすい町ですと、情報発信していくべきだと考えています。

以上です。

○議長（青木 靖君） これで、大川華穂議員の質問を終了します。

◇ 藁 科 善 君

○議長（青木 靖君） 次に、議席番号3番、藁科善議員。

〔3番 藁科 善君登壇〕

○3番（藁科 善君） 議席番号3番、藁科善です。

10年後の伊豆市でどう過ごしたいか。

私は10年後の伊豆市で、観光客だけではなく、伊豆市の人も楽しめるお店や、地域活動な

どが増え、毎日ワクワクして過ごしたいと思っています。

伊豆市は、修善寺温泉という有名な観光地があるため、観光業に力を入れているというイメージがあり、身近なところに伊豆市の人を楽しめたり、便利だと思ったりするものが少ない気がします。

そのため、子供が思い切って遊べるような広場、例えばミニアスレチックのようなものや、身近にあって、通いやすい大きな病院、伊豆市の景観を生かした展望台や天文台など、どれか1つでも設置すると観光客だけではなく、地域の人たちも楽しむことができると思います。

他にも修善寺中学校など、今年閉校してしまう中学校を使って、今まであまりできなかった大きなお祭りを行ったり、天城、中伊豆も合わせた地域の運動会を開催することで、子供だけでなく、20代くらいの若者も、伊豆市に立ち寄って行きやすくなると思います。

また人口が少ないことを生かし、家族を超えた地域間の交流も多くなると良いと思います。

例えば、私が生徒会に立候補したときに提案したものの中に、助け合いの循環というものがあります。

ある問題に困っている人がいるとします。その問題をそれについて詳しい人が手助けをし、課題を乗り越えます。課題を乗り越えた人は、また新たな課題を見つけて、それについて深めたり、同じことで困っている人たちを助ける側に回ったりするのです。

これが私の提案する「助け合いの循環」です。このようなことが伊豆市に導入されることで、毎日がワクワクの連続になってくると考えます。

市民がワクワクするようなまちづくりについて市長の考えをお聞きます。

○議長（青木 靖君） ただいまの藁科善議員の質問に対し、答弁を求めます。市長。

〔市長 菊地 豊君登壇〕

○市長（菊地 豊君） 藁科議員のご質問にお答えします。

議員は生徒会長ですか。51年前に私も天城中学校の生徒会長をやったのを思い出して、なかなか大変だったなと思い出しました。

市民がワクワクするようなまちづくり、いいですね。私も伊豆市はそうありたいと思っています。

まず広場、大きな広場を今建設中で、来年4月の伊豆中学校の発足に合わせて、その一部が完成します。全部が完成するまではもう少し時間がかかります。新しい中学校に隣接する約5ヘクタールの大きな公園です。これができ上がれば、伊豆長岡のリバーサイドパークに行かなくても済むようになります。

中伊豆の白岩に移転した温泉病院は、この地域では、順天堂大学静岡病院に次ぐ規模の病院で、市役所前には伊豆赤十字病院もありますし、その他に、市内には3つの病院があります。実は地域医療には恵まれているんです。

市民ホールや天文台などは、さあどうでしょう皆さん。すべての市町村が自分で持っていないてはいけないうでしょうか。

私は、近くの施設を利用し合えばいいではないかと考えている方です。

修善寺虹の郷には、他の市町から来ていただいても結構ですし、伊豆市の事業であるグリーンコンサートは年に1回、伊豆の国市のアクシスかつらぎをお借りしています。函南町の天文台には、私も行ったことがあります。ただ、本当の夜空は何といつても、達磨山の山頂が一番綺麗で、すばらしいだろうと思います。

本物の夜空を見上げるための環境整備はもう少し頑張つてもいいかなと思っています。

皆さん、夜空に広がる天の川を見たことありますか。地球は天の川銀河の中にあります。天の川銀河は中心にブラックホールがあつて、地球は中心から3万光年ぐらい外側にあると言われています。仕事とかでストレスがたまると私は宇宙を見上げて、地球だつてあの中の一部なんだなあと思つて、なんて言うんでしょう、宇宙の偉大さを考えることもあります。

そんなことを学べる場所と機会は、もっと欲しいだろうなということは十分に理解できます。

私はいろいろなイベントで、伊豆市を紹介するときに、特に伊豆市内のすばらしい景色を紹介すると、自分で涙が出るほど嬉しくなることがあります。

静岡水わさびが世界農業遺産に認定されたとき、農水省で紹介された天城や中伊豆のワサビ沢は井上靖原作の「わが母の記」が映画化されたときの、滑沢溪谷。あるいは新しくできたテラッセオレンジトイから眺めた駿河湾に沈む夕日。そして修善寺温泉。台湾の観光局長さんが修善寺においでになったとき、修善寺温泉を散策して、もうこれで京都に行かなくても、ここでいいわ、とおっしゃったそうです。

皆さん、帝国劇場やコストコに毎日行くと思ひますか。ミュージカルを見たいときや、プロ野球、プロのサッカーを見たいときは、2時間で東京に行けるし、御殿場のアウトレットまでは、今1時間もかかりません。

ぜひ皆さんも、伊豆市にとって最も大切なもの、将来に向けてしっかりつないでいかなければいけないもの、あるいは生活になくても困らないもの。そういったものをじっくり話し合つてみる機会を作つていただければと思います。

以上です。

○議長（青木 靖君） これで、藁科善議員の質問を終了します。

◇ 山 崎 結 夏 君

○議長（青木 靖君） 次に、議席番号11番、山崎結夏議員。

〔11番 山崎結夏君登壇〕

○11番（山崎結夏君） 議席番号11番、山崎結夏です。

10年後、伊豆市でどう過ごしたいか。

私は、10年後この伊豆市で、私の夢である小学校の先生として働きたいと思っています。そして、小学校の子供たちに、伊豆市の魅力や伝統を伝えて、少しでも伊豆市の役に立ちたいと思っています。

そして、より多くの子供たちに、伊豆市の伝統を伝えるためには、今の伊豆市の課題である少子化を解決しなければいけないと思います。

では、どうすれば少子化が解決するのか、私の1つの意見を発表します。

それはSNSや雑誌などで、伊豆市のよさを発信することです。私は今、KURURAという伊豆市のよさを発信する雑誌の子供編集部で活動しています。

そこで、私が気づいたことは、伊豆に住んでいても、伊豆にたくさんの魅力があることを知らないということです。だから私は、伊豆に住んでいない人も伊豆に住んでいる人にも、良さを知ってもらい、伊豆市に住んでもらうことが大切だと思いました。

少子化の解決策をどのように考えているのか、市長と教育長に伺います。

○議長（青木 靖君） ただいまの山崎結夏議員の質問に対し、答弁を求めます。

初めに市長。

〔市長 菊地 豊君登壇〕

○市長（菊地 豊君） 山崎議員のご質問にお答えします。

議員は、小学校の先生になりたいということだそうですが、多分、教育長は、もう涙が出るほどうれしかったのではないかと聞いていました。

私が子供のころよりも、今の伊豆半島の住民の皆さんは、地元のことを知らないのではないかと思います。私が子供のころですから50年以上も前のことなので、皆さんにとっては大昔のことになります。

その頃日帰りのバス旅行は、静岡県東部のほぼ限界で、頑張って真鶴、だいたい富士山から石廊崎の間ぐらいが旅行先でした。ですから、毎年1回か2回、伊豆半島の中で旅行していました。今は日帰り旅行といえば、まず東京ですね。あるいはアウトレット、今こそ改めて地元の伊豆をもう一度見つめ直すべき時期だろうと思います。

山崎議員は天城高原に行ったことがありますか。

東急という、とても大きな会社が、ホテルやゴルフ場を運営していて、天城山登山の入口にもなっています。そこから見ると、雄大な富士山の裾野が東西に広がって、東に相模湾、西に駿河湾が一望できる。このような光景は、間違いなく世界レベルです。

静岡県の総合計画において、県、市も同じように総合計画という全体の事業の計画を作っていますが、その県の総合計画において、伊豆地域の方針を、世界レベルの魅力溢れる自然を生かした観光交流圏と示されていることも最もだなと思うことがあります。

下田街道の旧道にある天城山隧道は国の登録文化財ですし、滑沢溪谷は青森県の奥入瀬にも全く引けをとりません。

小学校5年生で私と一緒に東京からここに移り住んだ私の次男は、テレビで旅番組をやっ

ていて、タレントの方がある観光地を見て、素晴らしい景色ですねと言ったら、うちの次男がここと同じじゃんと言ってたんです。だから私は息子に、そうだよ、ここは観光地のど真ん中だよ、といったことを思い出しました。

皆さんが高校に入学したら、ぜひ、他の市町から来た同級生に自信を持って伊豆市のことを自慢してください。

そして、一番大事なことです、少子化対策。私自身にも責任があると思いますけれども、私たち大人が自分の故郷と自分の人生に自信と誇りを持って家族を持つこと、生きていくこと、この土地を愛することはすばらしいことなんだと、やっぱり発言し実行しなければ、やっぱり皆さんは都市部に憧れて、都会に出ていくんだろうと思います。

そして残念ながら、今、日本の働いている人たちの4割は非正規職員。自分で会社を作ったり、あるいは会社の社員にならないで、非正規として働いている人たちが4割もいるそうです。

どのような人生設計をしたらいいのか、それを本当は私たちが示さなければいけないんだろうと思います。長い道のりですが、このふるさとを大切にしながら、しっかり所得を得ていく道筋を皆さんにお見せできれば、それが一番効果のある人口減少対策だと思っています。

○議長（青木 靖君） 続いて教育長。

〔教育長 鈴木洋一君登壇〕

○教育長（鈴木洋一君） それでは、私から山崎議員の教育における少子化対策についてお答えをいたします。

山崎議員が、小学校の先生として、子供たちに伊豆市の魅力や伝統を伝えて、伊豆市の役に立ちたいという思いは、とても素晴らしいものであるとともに、先生となる夢をぜひ応援したいというふうに思っています。

まず、伊豆市の魅力について知らないということですが、皆さんが伊豆市のことを主に学習している総合的な学習の時間というものがありますが、そちらは平成14年度から学校の授業に組み込まれたもので、それまでの学校の授業では、伊豆市の魅力について話を聞いたり、体験をしたり、自分で調べたりする時間が少ないのが現状でした。

したがって、伊豆市の魅力については、40代以上の人よりも、皆さんの方がより多くの魅力について、聞いたり、体験しているのではないかと思います。

私自身も、社会人として伊豆市に住むようになってから、自然のすばらしさを体験したり、魅力を知ったりすることが多くありました。

そのような中で、教育として、少子化に取り組む対策では、1つには、山崎議員たちが取り組んでいるような、伊豆市の魅力を発信して、知ってもらうことです。授業で学んだ、伊豆市の魅力を伊豆市の大人たちや、市外に発信する機会を設けることで、より多くの方に、伊豆市の魅力を知ったり、体験してもらったりすることができるのではないかと思います。

具体的には、伊豆市の魅力について学習したまとめをホームページ上で公開したり、山崎議員たちが取り組んでいるような情報誌として広報したりする、学校外での活動を推進していくことなどが考えられると思います。

また、伊豆市で新たな仕事を起業したり、オンラインを活用して、都会の会社に勤務しながら、伊豆市に移住されたりした方々から、伊豆市の魅力についても学ぶ機会を設けることで、今まで自分たちや周囲の大人が感じていたものと、違った価値感を知ること、新たな選択肢も広がるというふうに思っています。

2つには、安心して子育てができる、教育環境づくりです。子供や保護者が安心して通うことができる学校環境づくりと、家庭や地域が子供を支えることができるような、そういった組織づくりを進めることで、伊豆市で子育てをしたいと思える方が増えていくことができればというふうに考えております。

以上です。

○議長（青木 靖君） これで、山崎結夏議員の質問を終了します。

◇ 鈴木花奈君

○議長（青木 靖君） 次に、議席番号14番、鈴木花奈議員。

〔14番 鈴木花奈君登壇〕

○14番（鈴木花奈君） 議席番号14番、鈴木花奈です。

便利な伊豆市に。

私は、10年後の伊豆市で、今より快適に過ごしたいです。そのために、伊豆市が便利な田舎になっていたらいいと思いました。田舎から人が出ていってしまうのは、田舎イコール不便になってしまっているからではないでしょうか。ある程度便利な場所なら、田舎でも人は集まるのだと思います。

具体的には、例えば移動販売が出回るなど、高齢者にとって便利ながあったらいいと思いますし、若い人が行きたくなるようなショッピングモールなどの商業施設がたくさんあっても便利でいいと思います。そして、それに伴って、交通網も発達させれば、大勢の人にとって過ごしやすい地域になるのではないのでしょうか。

一方で私は、伊豆市には田舎でい続けて欲しいとも思っています。田舎には自然の豊かさなど、田舎だからこそその良さがあります。それを守りつつ、10年後は便利で過ごしやすい快適な地域になって欲しいと思いますが、市長は、高齢者も若い人も便利になるために、どのようなことを考えていますか。

○議長（青木 靖君） ただいまの鈴木花奈議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

〔市長 菊地 豊君登壇〕

○市長（菊地 豊君） 鈴木議員のご質問にお答えします。

本質的な内容が含まれているので、この答弁は少し長くなります。

大昔の話をしますね。私が生まれたのは、1958年アメリカとの4年間の戦争で300万人も亡くなった戦争が終わってから13年後のことでした。その時の私の本柿木の自宅には、裸電球といってもわからないですね。蛍光灯ではない、こういう西洋梨のような形をした電球があったんですが、その裸電球以外は、今のNHKの大河ドラマでやっている、平安時代のような家でした。水は、山水を家の中に引いて、裏の川へ流れる。そしてご飯を炊くのはかまど。朝5時ごろから母親が起きて、ご飯を炊いて、家の中を流れていく水をくみ上げてお風呂に使う。多分、私が保育園に入るか入らないころか、そのあとでしょうか。家の中に蛍光灯がついたこと、家に電話が来たこと、白黒テレビが来たことをすべて自分自身で覚えています。

水道ができて家の中で蛇口を見たのは、私が小学校6年生のときでした。そんな生活でしたから、米と野菜は両親が作り、魚と豆腐が売りに来ていました。父親も車を持っていませんから、買いに行けなかったんです。

そして私が今の皆さんの年齢になった頃くらいから、生活がどんどん変わっていききました。まずは父親が小さな車を買って、そして今では大人の人たちは1人1台の車に乗っています。いつでも自由に動けるようになりました。それによって路線バスに乗らなくなり、近くの八百屋や魚屋で買わなくなり、私たちであれば、地元の、まず中島医院に行き、大きなけがや病院は日赤だったのが、皆さん順天堂に最初から行くようになり、大きな生活の変化が出てきた。

そして、私の地元本柿木に3件あったお店もすべてなくなりました。こうなると何をもって便利な生活というのかわからなくなってきました。便利な車を持つようになって、近くにあった便利なお店がどんどんなくなり、バスもどんどん減ってきました。皆さんはまだ車に乗れませんから、近くにお店がないと不便なのはわかりますが、多くの大人は自分で行く店を決めています。必ずしも伊豆市内であることが条件ではありません。

病気になったりけがをしたとき、地元の今野医院に行くのか、中伊豆温泉病院に行くのか、順天堂大学病院に行くのか自分で決めています。

買い物をするとき、大仁のアピタに行くのか、修善寺駅前のマックスバリュに行くのか、八幡のカドイケに行くのか、自分で決めています。

私は皆さんにぜひ、人が幸せに過ごすために本当に必要なものは何なのか、考えていただきたいと思います。年に数回、あるいはひと月に1回しか行かないお店が近くにないと本当に生活できないのでしょうか。もちろん、お年寄りや障害のある方は買い物に自分で行くことができません。遠くに行くことができません。

そこで、鈴木議員ご指摘のような移動販売車はとても役に立つと思います。かかりつけのお医者さんも、近くの方がいいと思いますけど、しかしこれからは、パソコンやスマホを使った遠隔診療もできるようになります。これぐらいの小型のロボットにセンサーをつけて、

自宅にいる方の体温や呼吸数をずっと調べることもできるようになります。

遠くに移動できない人のために、こちらから家にいる方に、行政サービスを提供することを、アウトリーチっていうんですね。外側にリーチを向けていく。こういったことを導入しながら、最新の技術で補う時代に入っていくと思います。

自動運転の車も時間の問題で、都市計画でお世話になっている大学の先生が、アメリカや中国で、運転手が乗っていないタクシーをたくさん見ているそうです。

ぜひ皆さんの中から、そのような新しい仕事のための技術を、新しい生活のための技術になりわいとして、大人になっていく方が増えていただければと期待をしています。

以上です。

○議長（青木 靖君） これで、鈴木花奈議員の質問を終了します。

それでは、ここで休憩をとりたいと思います。10分程度休憩をとります。

10時半まで休憩します。

休憩 午前10時19分

再開 午前10時30分

○議長（青木 靖君） それでは休憩を閉じ、会議を再開します。

休憩前に続き、一般質問を行います。

◇ 佐 野 安 華 里 君

○議長（青木 靖君） 次に、議席番号4番、佐野安華里議員。

〔4番 佐野安華里君登壇〕

○4番（佐野安華里君） 議席番号4番、佐野安華里です。

安全で住みやすい伊豆市を。

伊豆市の10年後が、今よりもっと住みやすくなるためには、地域に住んでいる人が安全に暮らすことのできる環境づくりが大切だと思います。私は総合の授業で、伊豆市に住んでいる人口のうち、高齢者が占める割合が年々高くなっていることとなりました。きっとこの先も高齢化は進んでいくと思います。私はそのことから、高齢者や障害を持っている人、そして小さな子供にも配慮したユニバーサルデザインをまちに多く取り入れていくべきだと考えました。

具体的には、自動ドアの普及、そして、歩行者信号が青になったのを知らせる音響式信号などが挙げられます。特に自動ドアは、杖をついている高齢者の方や車椅子の方、またベビーカーを利用する方の負担も軽くできます。

こういったユニバーサルデザインをさらに普及させていくことで、誰もが安全に住みやすくなる伊豆市が実現するはずです。また、子供が育ちやすくなるので、市外からも移住して

くる人が増え、地域の活性化にも繋がっていくと思います。

市長のお考えを聞かせてください。

○議長（青木 靖君） ただいまの佐野安華里議員の質問に対し、答弁を求めます。

菊地市長。

〔市長 菊地 豊君登壇〕

○市長（菊地 豊君） 佐野議員のご質問にお答えします。

伊豆市では、少しずつユニバーサルデザイン化を進めてきました。例えば、ここ市役所本庁、まず正面玄関のところ、階段の横に車椅子用のスロープを作り、そしてエレベーターを設置しました。これで車椅子の方も、市議会を傍聴することが容易になりました。

また、行政だけではなく、公共交通機関も公共施設と同じように、不特定多数の人が利用します。

皆さんは修善寺駅の特徴に気が付いたことがありますか。階段が1段もありません。電車を降りると、ホームから駅舎の外に出るまで階段がない駅というのは実は珍しい方なんです。

そしてバスに乗り換えると、今では、お年寄りの方も乗りやすい床の低いバスがありますし、一番新しいものがさらに車体がこう下がって、さらに乗りやすくなってるバスもあります。

また、高齢者や障害のある方を対象としたバリアフリーと異なり、ユニバーサルデザインは言葉や宗教・文化の違いに配慮した施策が必要になります。伊豆市は、東京2020大会、自転車競技の開催地となったことから、案内標識や施設の利用説明書などの多言語化、英語があったり中国語があったり韓国語があったり、そういったことを推進してきました。修善寺駅構内の観光案内所には英語ができる職員がいますし、駅構内に外国通貨を交換できるATMが設置されています。多くのホテルや旅館では、イスラム教徒の方々のために、ハラールという特別の調理法を取り入れているところもあります。

このように、伊豆市でもユニバーサルデザイン化は進んできました。そこで、皆さんにぜひ考えていただきたいことがあります。バリアフリー化は、物だけの問題でしょうか。心の中にバリアはないでしょうか。

これもドイツ勤務時代の話で恐縮ですが、階段などに差し掛かったとき、車椅子の人や、重い荷物を持ったお年寄りがいれば、必ず、すぐに何人も集まってきます。お手伝いしましょうかと。私は、その生活文化に慣れてから、必ずそういった方を見ると、彼らから見たら明らかに外国人ですけど、お手伝いしましょうかっていうと、ありがとうと言われて手伝わせていただきます。

20歳になったときに生まれて初めて外国旅行しました。デンマークからドイツに移って、大きな駅で地図をこう広げたら、謎のアジア人が地図を広げている。すぐに3人寄ってきてどこに行きたいんだ、ここの湖に行きたいんですと言ったらその中の1人が、じゃあ地下鉄

でどこどこまで行けばいいからといって、一緒に乗って、この駅で降りたらいいよと言ってくれたんです。日本では必ずしもそうでありません。荷物をお持ちしましょうかと言うことに日本人はやっぱり抵抗がある。「他人事」であり、知らない人の荷物を持ってあげることには抵抗感がある人が極めて多いのが日本の社会です。

真のバリアフリーとは何か、真のユニバーサルデザインとは何か、私たちにとってもまだ課題であり続けています。

ぜひ、一緒に考えていければと思っています。

○議長（青木 靖君） これで、佐野安華里議員の質問を終了します。

◇ 鈴木 瑛 太 君

○議長（青木 靖君） 次に、議席番号6番、鈴木瑛太議員。

〔6番 鈴木瑛太君登壇〕

○6番（鈴木瑛太君） 議席番号6番、鈴木瑛太です。

お年寄りにも住みやすいまちへ。

土肥は伊豆市の4つの地域の中で最も人口が少ない地域です。高齢化も進んでおり、地域のお年寄りの生活を支えるための交通手段の確保が急務となっています。しかし、唯一の公共交通機関であるバスは1時間に一本程度しか通っておらず、峠を越えて商業施設や病院等へ行くのにも膨大な時間と労力費用がかかります。

そこで、僕は土肥地区だけで生活ができるような生活関連施設の集約とコミュニティバスの運行を提案します。土肥支所周辺、金山周辺には、銀行、スーパー、ドラッグストアなどの生活関連施設が集まっています。他に散らばっている商業施設をこの地区に集約し、移動時間を短縮します。そして、車で移動できない高齢者や障害者の方に気軽に利用してもらえよう、コミュニティバスを運行し、その地区と住宅がある地区を結びます。アプリを使ってバスの運行状況を知らせて、利用者とマッチングすればより使い勝手もよくなると思います。お年寄りに住みやすいまちになることが、10年後、伊豆市の未来にも繋がってくると思います。

市長はどう考えるでしょうか。

○議長（青木 靖君） ただいまの鈴木瑛太議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

〔市長 菊地 豊君登壇〕

○市長（菊地 豊君） 鈴木瑛太議員のご質問にお答えします。

市内の姿を見ると、地域によって様子が異なります。天城湯ヶ島では、国道沿いにずっとこう縦に並んでいるんですね。松ヶ瀬に中島病院、青羽根に天城小学校、月ヶ瀬にインターと慶友病院、そして宿に天城湯ヶ島支所と図書館があって、どこかに生活拠点を集約することができません。

一方、中伊豆地区では八幡に生活拠点が形成されています。鈴木議員ご指摘の通り、土肥では土肥支所と金山の間に、土肥クリニック以外の生活関連施設が集約されています。

そこで、車を使えない方がどうすればここに来られるかということが課題になります。まさに、ご指摘の通りの課題です。小下田からと土肥方向のバスは、朝6時台に3本、10時台に2本、これは多分、通学のためと旅館をチェックアウトしたお客さんのためだろうと想像されます。その他の時間体は1時間に一本ですから、なかなか地元の高齢の皆さんが使うには使いにくい。さらに、小土肥では朝7時台に2本だけですから、地元の皆さんにとっては確かに不便な状況だと思います。もし、住民の皆さんに使っていただけるのであれば、コミュニティバスは1つの解決策だと思います。伊豆市でも、タクシーを使つてのコミュニティバスを幾度か社会実験してみました。その結果、本格導入には至りませんでした。自分の都合のよい時間に買い物に行きたい、あるいは買い物した後、バス停で降りて自宅まで荷物を持って行くのは大変だから、自宅まで送って欲しい。そうすると、バスでは対応できなくなります。

そこで、現在提案しているのが、地域力を生かした買い物支援です。例えば、旧小学校区の範囲、伊豆市では、地域づくり協議会という新しいチームをお願いしています。昔、土肥南小学校があった、小下田、八木沢で1つ、土肥小学校があった土肥と小土肥で1つ、そのような形で地域づくり協議会を作っていただけるようお願いをしています。その中で、買い物や通院の支援が欲しい人、手を挙げてください。運転の手伝いができる人、手を挙げてください。そして、その中で何時にしようかと、行き先はどこにしようかと話し合っただけ、合意された場所と時間で運営するというものです。現在、すでにいくつかの地域で実行されていて、土肥でもこのような活動が広がって、そして定着していくことを期待しています。

ちなみに、土肥の皆さんにとって最も近いにぎやかな都市は、実は静岡市なんですね。車のない方がサントムーンまで行く、沼津まで行くのはとても大変ですが、土肥港まで自転車で行ければ、あとは船に乗るだけで静岡市に行くことができます。それがフェリーの割引をしている理由の1つであって、向こうで買い物をすれば、2,000円ぐらいだったと思いますけど、片道1000円で利用できるということになりますので、土肥の皆さんの生活が極端に不便にならないように、行政もお手伝いをさせていただいてるところです。

以上です。

○議長（青木 靖君） これで、鈴木瑛太議員の質問を終了します。

◇ 鈴 木 悠 唯 君

○議長（青木 靖君） 次に、議席番号5番、鈴木悠唯議員。

〔5番 鈴木悠唯君登壇〕

○5番（鈴木悠唯君） 議席番号5番、鈴木悠唯です。

今後に残したい伊豆市のいいところは。

澄み切った湧き水、それが私の今後に残したい伊豆市のいいところです。私の家は毎週、中伊豆にあるワサビ田の湧き水を汲んで、飲み水として使っています。だから、湧き水はおいしいのが当たり前と思って過ごしてきました。しかし、私が山梨へ行った時のことです。水が湧くスポットがあり、気になった私は飲んでみました。ですが正直あんまりおいしくありませんでした。そこで初めて、伊豆市の湧き水のすごさ、貴重さを知りました。

伊豆市の湧き水がおいしいのは、火山の地下水で、ミネラルの含有量がちょうどよい軟水だからだと思います。ワサビを育てられるのは、澄み切った新鮮な水だけです。それがあるのは伊豆市のよさだと思います。

しかし、そんな湧き水もだんだんと減ってきています。山がどんどん開拓されていき、自然も減っています。ワサビの生産量も年々減っています。発展ばかりするのではなく、そういった伊豆市にしかない、必要なものを維持し続けることが、私は大切だと思っています。

伊豆市の自然を市長はどう活用していくお考えですか。

○議長（青木 靖君） ただいまの鈴木悠唯議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

〔市長 菊地 豊君登壇〕

○市長（菊地 豊君） 鈴木悠唯議員のご質問にお答えします。

私は、議員のお考えに完全に同意します。市長に就任した16年前から考えていたことです。私たちが絶対に守らなければいけない伊豆市の宝は、健康の天城連山、清らかな狩野川、そして豊かな海の駿河湾だと思っています。社会のあり方や産業構造は、時代の変化に応じて変えていかなければなりません。

皆さんは外国の写真を見て綺麗だなと思うことはありませんか。確かに、スイスの湖や南ドイツのドナウ川などは、写真で見るととても美しい。でも、あの水を飲むことはできません。他方、狩野川の水は、私たちが農薬や生活排水で汚さなければ、実は飲める水なんです。世界196カ国の中で、水道の水をそのまま飲める国は9カ国しかないそうです。さらに、日本は流れている表流水を飲める、そんな素晴らしい水に恵まれた国です。

修善寺温泉場の上に達磨山レストハウスがあります。皆さん行ったことがありますか。天気がいい日にぜひ1度行ってみてください。

実は、あの場所から写した富士山の写真が、昭和14年、1939年ニューヨーク万博に出展されて、アメリカで富士山は有名になりました。何と85年も前のことです。その写真を撮るために、当時の写真の会社、小西六という会社だと思いますが、今はコニカ・ミノルタという会社になっています。その会社は、富士山の周りを何十ヶ所と探したそうです。その結果、達磨山から見る、駿河湾越しの富士山が一番綺麗だ。つまり、今では世界中にマウント・フジと知れた富士山を最も美しく見ることのできる場所が、修善寺の達磨山ということです。

私は、伊豆の自然を誇りに思っていますし、大切に守っていきたいと思います。それだけ

でなく、世界中の人に、この伊豆のすばらしい自然を知って楽しんでいただきたい。伊豆縦貫自動車道や防災のための砂防ダムなど、一定の公共事業は避けることができません。その場合でも、自然とのバランスに最大限配慮した工事をお願いしています。

また、地球温暖化対策は世界の共通課題ですが、しかし、それでも森林を乱開発するような大規模太陽光発電は、受け入れたいとは思いません。いつまでもワサビ沢の水がおいしい伊豆市でありたいと思います。

○議長（青木 靖君） これで、鈴木委員の質問を終了します。

◇ 佐 藤 優 志 君

○議長（青木 靖君） 次に、議席番号7番、佐藤優志議員。

〔7番 佐藤優志君登壇〕

○7番（佐藤優志君） 議席番号7番、佐藤優志です。

海岸の景観を守る。

僕の住んでいる土肥地区では、防災と観光を両立させた津波避難複合施設、テラス・オレンジ・トイが今年オープンしました。夏には、祭りや海水浴で盛り上がる伊豆市唯一のビーチにさらに魅力が加わります。この魅力を残していくには課題があります。それは、ゴミ問題です。土肥の海は、毎年夏に多くの観光客が訪れます。そのせいか、よく海にゴミが浮いていたり、ビーチや道端に捨てられていたりするのを見かけます。土肥小中一貫校では、遠足のときに、生徒全員で海岸清掃を行っています。しかし、それだけでは綺麗になるとは思えません。今年はさらに観光客が増えると思うので、ゴミも増えてしまうでしょう。

そこで僕は、市が管理するゴミ箱の設置を考えました。海岸近くの施設や駐車場などにごみ箱を設置し、ポイ捨てなどを減らすことで、海岸に落ちているゴミを減らします。海岸の景観を守り、ゴミの分別にも繋がります。伊豆市には、魅力がたくさんあります。それをこれからも残すためには、課題と向き合って大切にすることが重要だと思います。土肥の景観とゴミの対策を市長はどう考えますか。

○議長（青木 靖君） ただいまの佐藤優志議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

〔市長 菊地 豊君登壇〕

○市長（菊地 豊君） 佐藤議員のご質問にお答えします。

自然を大切にする伊豆市で、ゴミ対策はとても大切な課題だと考えています。道路沿いに捨てられるゴミ、あるいは山の中に廃棄された古いタイヤや布団など、産業廃棄物の大問題ですが、ここでは海の問題についてお答えしたいと思います。

実は、海洋汚染は世界中で大きな問題になっています。その中でも対応が難しいのが、目に見えないほど小さくなったプラスチック、マイクロプラスチックと呼ばれていますが、プラスチックはどんなに小さく砕けても、海の水に溶けてなくなることはありません。魚の中

に入り、いずれ人の口に入ってきます。

実は、皆さんへの答弁書、私は休みの日に自宅のテーブルにパソコンを置いて書いていたんですが、当然質問を読んで、それから書き始めるわけです。この質問読んで、そして答弁書を書く、その間の夜、プラスチックを食べる夢を見てしまいました。朝、起きてほっとしましたね。なんで俺、プラスチック食べてたんだろうと。本当に怖くて、夢から冷めたときほっとしました。では、なぜ海の中に大量のプラスチックあるんでしょうか。そうです。人間が捨てたものです。海に面した土肥だけの問題ではありません。狩野川、大見川、修善寺川に捨てられたペットボトルやビニール袋が大量に駿河湾に流れ込み、そして太平洋に広がっています。日本だけではなく、日本海や東シナ海の周辺の国々から大量のプラスチックのごみが太平洋に広がっているんです。

この問題を根本的に解決するためには、世界の人々と思いを1つにして、協力し合わなければなりません。でも、だからといって、私たちが何もしないというのは許されないと思います。土肥小中一貫校の生徒さんが、海岸の掃除を行っていることに心から敬意を表します。ぜひ、このような活動は続けていただきたいと思います。観光協会の人たちなども、海開きの前など、その他のときもそうですけど、海岸の掃除を続けてくださっていると聞いています。今、日本中で話題になっているテラッセ・オレンジ・トイの近くに、大きなごみ箱を置くのも1つの選択肢かもしれません。

何が実行可能で、かつ効果があるのか、そのような対応策をしっかりと検討していきたいと思います。

○議長（青木 靖君） これで、佐藤優志議員の質問を終了します。

◇ 大 川 竣 矢 君

○議長（青木 靖君） 次に、議席番号12番、大川竣矢議員。

〔12番 大川竣矢君登壇〕

○12番（大川竣矢君） 議席番号12番、大川竣矢です。

伊豆市がこうなったら困ると思うこと。

京都・奈良と伊豆とでは、観光客数に大きな差があります。歴史や地理的な条件、知名度など、理由は様々です。しかし、伊豆市が京都・奈良より勝っているものもあります。それが、リピート率です。伊豆市にはすでに人を引きつける魅力があるということです。私はそれが心と体を休める伊豆だと思います。

温泉旅館、自然を感じることができる観光名所がそろっていると思います。たくさんの観光名所を周り、疲れ果てて帰る旅行ではなく、毎日の忙しさから離れ、一息ついてリフレッシュできる伊豆旅行を紹介することが、伊豆の集客に繋がると考えます。伊豆市に旅行に来る人は、高齢者が主だと思われがちですが、共働きが増えている昨今、30代から50代の子育て世代をターゲットにしてもいいと思います。そこで、宿泊施設1ヶ所と、最寄りの観光名

所1ヶ所をセットにした旅行プランを、伊豆市共通のコンセプトとし、そのコンセプトに基づいた旅行プランを作ることを提案します。

市長の考えを伺います。

○議長（青木 靖君） ただいまの大川竣矢議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

〔市長 菊地 豊君登壇〕

○市長（菊地 豊君） 大川議員のご質問にお答えします。

子育て世代をターゲットにしたセットの旅行プラン、とてもよい提案をいただきました。私は、これからの伊豆への旅行は、対象とする地域によって目的が異なるのだらうと思います。北米やヨーロッパ、東南アジアなどから来られるお客様は、伊豆から眺める富士山や美味しくて健康的な和食を楽しんでいただきたい。台湾や韓国など東アジアの人たちには、ぜひピーターになっていただき、伊豆の様々な特徴を楽しんでいただきたい。

そして、伊豆の最大マーケットである首都圏の方々には、その生活の一部として、伊豆を利用いただきたいと思います。電車でも、車でも、東京から伊豆まで2時間になりました。県の東部や伊豆に大きな施設がなくても、東京や横浜周辺に所在するプロスポーツの施設、大規模商業施設を私たちも使うことができます。大体頑張っても年に数回ですね。逆に、首都圏で仕事をしている方々は、その生活の一部として、物見遊山の旅ではなく、自分へのご褒美、ちょっと自分が休みたい、家族と一緒に休みを取りたい。そのような目的のために伊豆を活用していただければいいと思っています。

さあ、ディズニーランドや高級デパート、渋谷の繁華街などがある東京の人たち、東京周辺の人たちは、同じように、伊豆ににぎやかな場所を求めるでしょうか。むしろ、ゆっくり温泉につかりながら、伊豆の海、山の食材を味わい、美しい自然の中で自分を休ませる環境が欲しいのではないのでしょうか。

湯ヶ島温泉の少し先には、浄蓮の滝や美しい溪谷があり、天城山隧道があり、八丁池があります。中伊豆には洋風の中伊豆ワイナリーのホテルがあり、民宿もキャンプ場もあり、萬城の滝があり、すばらしい里山景観に恵まれています。土肥は何と言っても、駿河湾に沈む夕日、私は1度しか行ったことはありませんが、南フランスの地中海に沈む夕日と全く引けをとりません。そして、ノスタルジックロマン修善寺にはすでに多くのお客様が来ています。

伊豆市の観光資源を活用するとき、私は皆さんにぜひ視野を伊豆半島全体に広げていただきたいと思います。伊豆市は天城連山の一部、狩野川の最上流部を擁し、駿河湾にも面していますから、伊豆半島の特徴の多くを包含しています。

しかし、さらに伊豆全域で考えれば、ほとんどの食材を提供できます。箱根に海がありますか。田んぼがありますか。稲取のキンメダイも、沼津のアジも、伊東のイカも、伊豆市が誇るワサビやシイタケとコラボすることで、世界に冠たる和食を作ることができます。狩野

川には淡水魚のアユとアマゴがあり、お米も野菜も取れます。海や田んぼのない観光地よりも、伊豆の方がずっと有利な条件があるはずです。ぜひ、宿泊と立ち寄り先をセットにしたプランに、食事のプランも加えて、子育て世代の皆さんが子供さんと一緒に安心して休日を過ごすことのできる伊豆でありたいと思います。

最後に1つ、私が勘違いしていたことを外国の方に指摘されたことを紹介します。市長になる前までは30年間離れていましたから、17年前に伊豆に戻ったときから、ずっと観光客の目線で伊豆半島見ていました。でも、16年間市長やってきて、やっぱり気持ちがこちらに移ってきたなと思います。伊豆半島は何ととっても、首都圏のお客様が一番多いので、日帰りとか、できれば一泊していただきたい。中伊豆の地藏堂に伊豆ハイツというゴルフ場があります。マレーシアの方が買い取りました。奥さんが、マレーシアの方、ご主人はレバノン系オーストラリアの方。子供さんはスイスに留学し、娘婿さんは、スイス人。そこで私は、中伊豆の皆さんごめんなさいね。本当に、こんな田舎を買い取っていただいて大丈夫なんだろうかと、心配で何度も何度もオーナーの方に本当にここでいいですか。こんな伊豆の山の中でいいんですかと聞きました。何を言ってるんだお前は、そんな綺麗な自然で、こんなにすばらしいワサビ沢があってこんなに綺麗な水があって、ここに1週間いればいいじゃない。銀座なんか1回行けばいいだろう。アウトレットも1回行けばいいだろう。1週間ここにいて、ここから東京に、ここから御殿場に行けばいいじゃないか。全く発想が私と逆だったんです。

なるべく皆さん、多くの人と会って、いろんなところ旅行して、いろんな場所を見て、もう一度、伊豆のことを考えてみてください。私の反省を兼ねて、皆さんにご紹介しました。

○議長（青木 靖君） これで、大川竣矢議員の質問を終了します。

以上で、本日の一般質問を終了します。

本日は、中学生議員の皆さん、伊豆市の将来に向けた貴重なご意見、ご質問をいただき、大変充実した議論ができたと思います。

本当にありがとうございました。

ご協力いただきました、すべての皆様のおかげで、大変充実した時間を持てたことに感謝申し上げます。

◎閉会宣告

○議長（青木 靖君） これをもちまして、伊豆市市制20周年記念事業中学生議会を閉会いたします。

ありがとうございました。

閉会 午前 1 1 時 0 4 分

会議規則第88条の規定により署名する。

議 長 青 木 靖

署 名 議 員 小 藤 田 爽 真

署 名 議 員 鈴 木 花 奈